

浜美化交流・報告会 2008年の年間活動を報告



鈴木明彦 北海道教育大学教授の
 講演「ビーチコーミングについて」



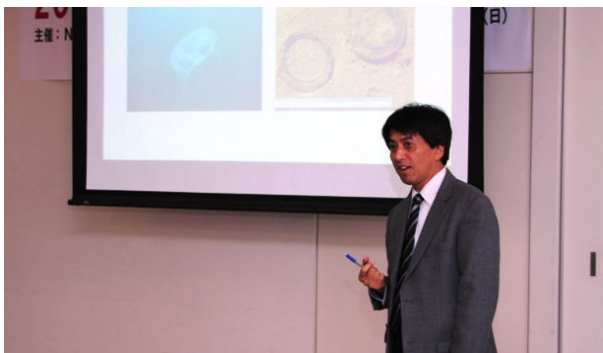
11月2日（日）札幌エルプラザにおいて、2008年を締めくくる、「2008浜美化交流・報告会」を開催しました。

1年間の活動をDVDとパワーポイントで紹介、その後、鈴木明彦・北海道教育大学札幌校教授による「ビーチコーミング」の講演がありました。

様々な浜辺の漂着物を見せながら、地球環境の悪化、温暖化問題など身近な実例を挙げながら、環境保全の重要性を訴えました。

ビーチコーミングとは、海岸に打ち寄せられる漂着物を分析することで、海流や海の生態系の変化をしらべるもの。10数年前から日本の各地の海岸で行なわれてきたが、ここ数年、北海道でも少しずつ行なわれてきた。今回、鈴木教授が紹介したものは、暖流系の南の海岸に生息するアオイガイ、さらには南の島で育つやしの実など。そのほかに、ガラスの浮きだまや漁具の一部が紹介された。また、石炭のかけらも。これは、石狩川上流の三笠市周辺の川辺に存在する石炭層が川の流れにえぐられて石狩川を経て海にたどり着き、それが海流で石狩浜に打ち寄せられたのだと言う。当会では、今後漂着物にも目を向けながらゴミ拾いを行なっていく方針だ。

参加者は交流を兼ねて質問やディスカッションを行い、親睦を深め、1年間の労をねぎらい、来年に向けての決意を新たにしていました。



司会の湯朝事務局長



尾崎宏一副会長の挨拶